吉野秀雄全集

第二巻

吉野秀雄全集

第二巻

筑摩書房

吉野秀雄全集第二巻

昭和四十四年十月二十日第一刷発行
昭和五十二年五月二十日第二刷発行

著者　吉野秀雄
発行者　井上達三
発行所　筑摩書房
東京都千代田区神田小川町二ノ八
郵便番号　一〇一―九一
電話　東京(三九)七六五一(代表)
振替　東京　六―四一二三

印刷　多田印刷株式会社
製本　株式会社鈴木製本所
落丁・乱丁本はお取替いたします

吉野秀雄全集第二巻　目次

含紅集……一三
短歌作品拾遺……三九
歌集目次……三四三
自註　寒蟬集……三七七
寒蟬集
昭和十九年
玉簾花……三八〇
百日忌……三八八

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

彼　岸……四〇一
昭和二十年
乙酉年頭吟……四〇四
仰寒天正述傷心……四〇八
寒日訪友……四一三
狩野河畔……四一五
修善寺雑歌……四一八
富　士……四二二
雪の日……四二一
きさらぎ……四二二
観　古……四二三
病臥二旬……四二六
鎌倉落花……四二九
送　別……四三〇
晩春雑歌……四三一
夏季小吟……四三四
亡妻小祥忌前夜……四三五
夜間瀬川……四三七

秋　霖……四四九
秋艸庵……四五〇
北海大風……四五二
旅上偶成……四五三
西芳寺林泉……四五四
法隆寺……四五七
薬師寺……四六〇
唐招提寺……四六四
室生路……四六六
猿沢池……四六八
志　摩……四六九
たらちねの母……四七三

早梅集（鈔）

昭和十七年

法隆寺……四七九
白旗宮実朝祭献歌……四八二
逗子行……四八四

歎異鈔を誦みつつ……四八六
昭和十八年
無学祖元石塔……四八九
伎楽菩薩……四九〇
東大寺三月堂……四九三
鑑真和上尊像……四九四
佐保山御陵……四九六
春夏雑詠……四九七
悼山田珠樹……五〇一
昭和十九年
年頭小吟……五〇一
現実……五〇二
東慶寺紅梅……五〇三
徧界一覧亭……五〇五
戸倉……五〇五
後記……五〇八

短歌とは何か

短歌の作り方

はしがき……五一三
短歌の形式と内容……五一五
作歌上の根本態度……五二三
作歌の実際……五三七

作歌の技術

推敲について……五五八
推敲と添削……五六一
歌ならぬ歌……五六五
推敲的批評の実例……五七二

短歌の鑑賞

前書き……六二三

万葉集の歌……六二三
源実朝の歌……六二八
賀茂真淵の歌……六三三
田安宗武の歌……六三七
良寛の歌……六四〇
平賀元義の歌……六四六
橘曙覧の歌……六五〇
愚庵の歌……六五五
正岡子規の歌……六五九
伊藤左千夫の歌……六六四
長塚節の歌……六六八
岡麓の歌……六七三
島木赤彦の歌……六七六
斎藤茂吉の歌……六八一
古泉千樫の歌……六八五
中村憲吉の歌……六八九
会津八一の歌……六九三
若山牧水の歌……六九七

北原白秋の歌……七〇一
木下利玄の歌……七五五

解　題……二二一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

吉野秀雄全集第二巻　短歌Ⅱ

歌集　含紅集

昭和三十二年

年頭秋艸道人をおもふ

亡き大人(うし)の夢一字軸年立ちしあしたに見つむなべて夢かな

齢若くよくぞ書かしし瓶梅図壁にかかげて香焚きまつる

秋艸堂に花残りゐし油点草(ほととぎす)その他の鉢も雪にうもれけむ

車中迎春

北国(きたぐに)へ夜汽車向へり雪の野に初日差すまで寝(い)ねずかもあらむ

わが酒をこばむ若者雉撃ちに越(こし)へ行くとふ羅紗帽清し

空席もなく立つ人もなき夜行車に安らぎ見えて年立たむとす

春寒抄

入院の日の朝われのセーターの穴つづりゐし汝(なれ)を死なせじ

手術後の湯治に行くと目覚ましの時計鞄に入るる妻あはれ

春寒き風うけて自転車漕ぎゆくに舗装路面がてらてら光る

よき事も限りありとかわが悪しき運も極まりあるを恃まむ

雑詠

原稿が百一枚となる途端我は麦酒を喇叭飲みにす

わが庭はあやめ今咲けり一八の花の終りて日や経にけらし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c